

調舒星中殺

調舒星の性情には「反抗」「孤独」「空想家」等という意味合があります。神経の繊細さは「十大主星」中、最大です。その繊細さが完全・完璧なものを求め、自分の環境さえも自分の手で完全なもの成そうと努めます。

調舒星の世界は、ロマンの世界であり空想家の世界でもあったのです。その反発心と反抗心の激しさは時として自分自身の肉体を傷めたりもする世界であったのですが、この星が中殺されると、自分の意図するものによっての反発・反抗の精神が生まれなくなるのです。

(それは、調舒星の性情が消えて、別な形で出てくるか、あるいは強調されて出て来るからです。たとえば靈感に近いカンが働き、理屈が通じない感情家になりがちです。もともとこの星には「感受性」「空想とロマン」という意味がありますが、中殺されることによって、この気質がさらに高められてくるのです。

調舒星者は、鋭いカンや感覚を生かすような職業につくといいです)

そのために調舒星中殺をもっている人は、神経の繊細さを所有していながら、内向性となって現れる場合の差が大きくなってくるのです。

この状態が、たいへんにヤケになって明るく振舞うか、自暴自棄になりやすい状態をつくりだすのです。

また、調舒星中殺をもっている人は、両親と早く別れる悲しみに遭い、物質的に恵まれていても精神的には恵まれているとは云えない一面をもっています。

そして、自分自身を周りに認めさせたいという自己顕示欲が強いのです。

しかし、この自己顕示欲も社会の表面には立ちたがらない、つまり内向してしまうという特色があります。

周りから認められたいが、常に一步引いたところにいたいと思うのです。たとえば会社の中でも認められたい、自分のプランはだれよりも優秀でありたいが、地位的には責任をとる立場にいたくないと思うのです。

というのは、調舒星中殺を持つ人は、年若くして悟りきるので、つまり老成の心理状態を形成することができるという力を持っているために、自分自身をみつめる目もさめているのです。

ですから、社会の表に立ち重荷を背負うことにも恐れを感じてしまうのです。

表面的には悟りというよりも引っ込み思案に見えるのもそのためです。

この状態から、社会にあってかくれた責任者を形成し、間接的に仕事にたずさわる者が多数排出されることになります。

宗教家や思想家などのように表面に出ずに周りに多く影響を与える立場の人が多いのもそのためです。

また、最大の欠点は経済観念が薄いことです。そのために商人や実業家がこの中殺をもっていると仕事の存続が保ちにくくなります。そのような状態に追い込まれた場合、内向性にでるため自殺をしがちです。

それも周りのものも滅亡させる、心中という形で現れがちです。

人間関係にたとえますと、子供、目下でした。ですから中殺者は目下や部下に振り回されやすいのです。